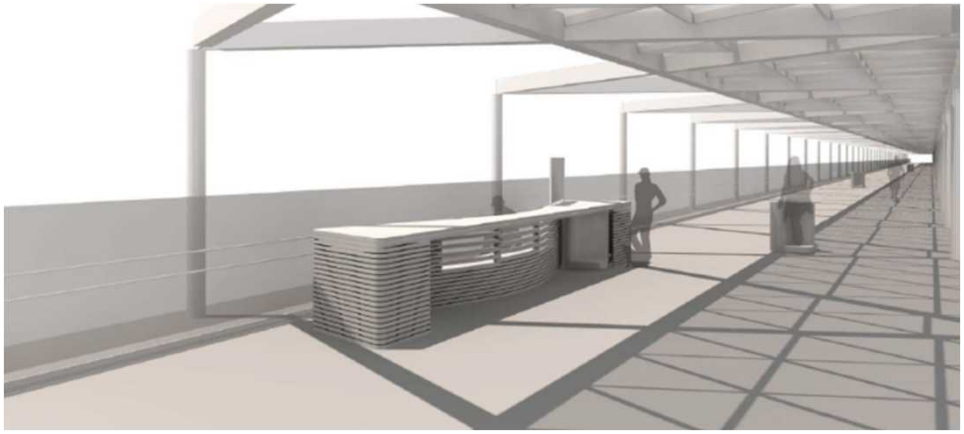
⑨【複数年度（1年目）】道路上において歩行者と共存するためのモビリティの走行性に関する実証実験（兵庫県神戸市）

1. 実験概要、留意すべき項目

- 神戸三宮を歩行者優先の空間を再整備していく上で、モビリティ走行の実証実験を通じて、モビリティの安全な走行と歩行者の共存を検証する。
- 低速自動走行モビリティの道路構造や交通への支障を検証するため、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取組みとなること。

2. 今年度の調査内容、調査結果

①モビリティ現地実験に向けた事前調査
⇒3個所の候補地を比較検討し、実験地を選出
⇒モビリティの事前試走により、モビリティ走行性や安全性面を確認



モビリティスポット設置イメージ

事前試走実施状況

3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
新モビリティ走行と周辺歩行者との共存性の検証	ベンチの配置、路面サインによる動線の工夫等の検討 テスト走行により、搭乗者および周辺歩行者ユーザの反応の変化を検証
モビリティスポットの法規制上の取扱い検証	道路使用許可、道路占用許可の法令上の取扱いについて、許可権者側と設置主体側の両面から課題を抽出

⑨【複数年度（1年目）】道路上において歩行者と共存するためのモビリティの走行性に関する実証実験（兵庫県神戸市）

4. 今後のスケジュール

- 令和6年4月　関係機関協議、実験準備、実験広報
- 令和6年5月　実験実施
- 令和6年6月　結果収集、分析
- 令和6年7月～8月　とりまとめ

5. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
様々なモビリティサービスが世に出てきているが、回遊性を高めるモビリティというものは新しいタイプである。認知度を高めることで安全性も高まっていく。できるだけ乗ってもらえるように声掛けを行い、認知度を高めてもらいたい。	事前広報を行ったうえで、実証実験時についても、周辺歩行者へ声掛けを行い、モビリティに乗ってもらい、認知度を高めていきたい。
路面へのサインについて、街に合わせてデザインを工夫するのがよい。	実験場所が確定次第、その走行場所に合わせたデザインを検討する。
実験時に行うアンケートについて、どのような場所にモビリティサービスがあればいいか等、まちづくりの観点も含めた内容にしていただきたい。	実験時に行うアンケートの質問事項について、まちづくりの観点に関する項目も加える。

6. 評価

- 順調に実験が進んでいる。
- 次年度の実施内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。